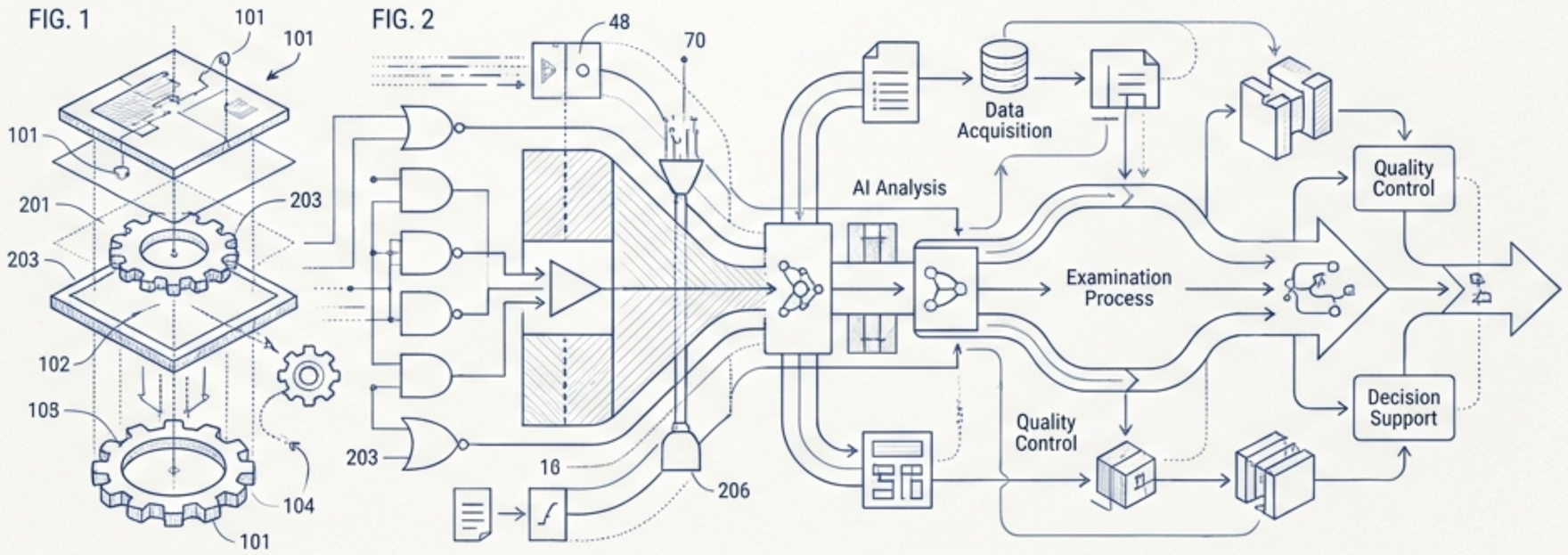
特許庁AI業務変革ロードマップの解剖とIP5比較

実装で先行するJPOと、実務者が備えるべき「令和9年」への戦略



Date: 2026年10月30日基準

Target Audience: 知財戦略担当者・弁理士

Gemini Notebook

WHAT - 審査の中核へのGenAI導入

JPOは短期29業務のAI適用を発表。「発明理解・対比・起案」という特許審査の心臓部に生成AIを組み込む、人間中心のAI設計を提示。



SO WHAT - 実装先行・定量計画劣後の特異性

IP5比較において、JPOは具体的な業務実装とデータ開放(MCP)で先行する一方、審査期間短縮等数値目標は持たず品質維持を重視する独自立ち位置。



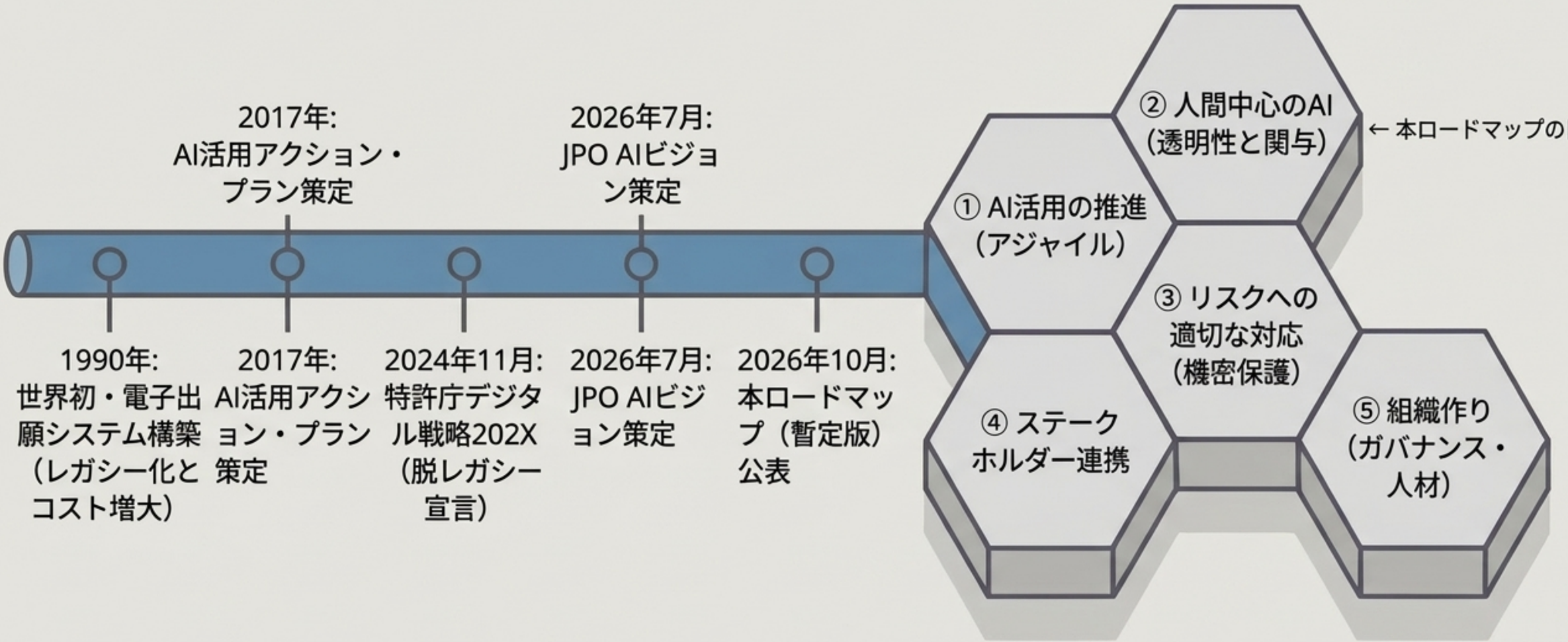
NOW WHAT - 実務プロセスの再設計

AIが読みやすい明細書への構造転換、令和 9 年のAPI開放に向けた自社システムの準備、EPOの責任規程を教訓としたAIガバナンス構築が急務。

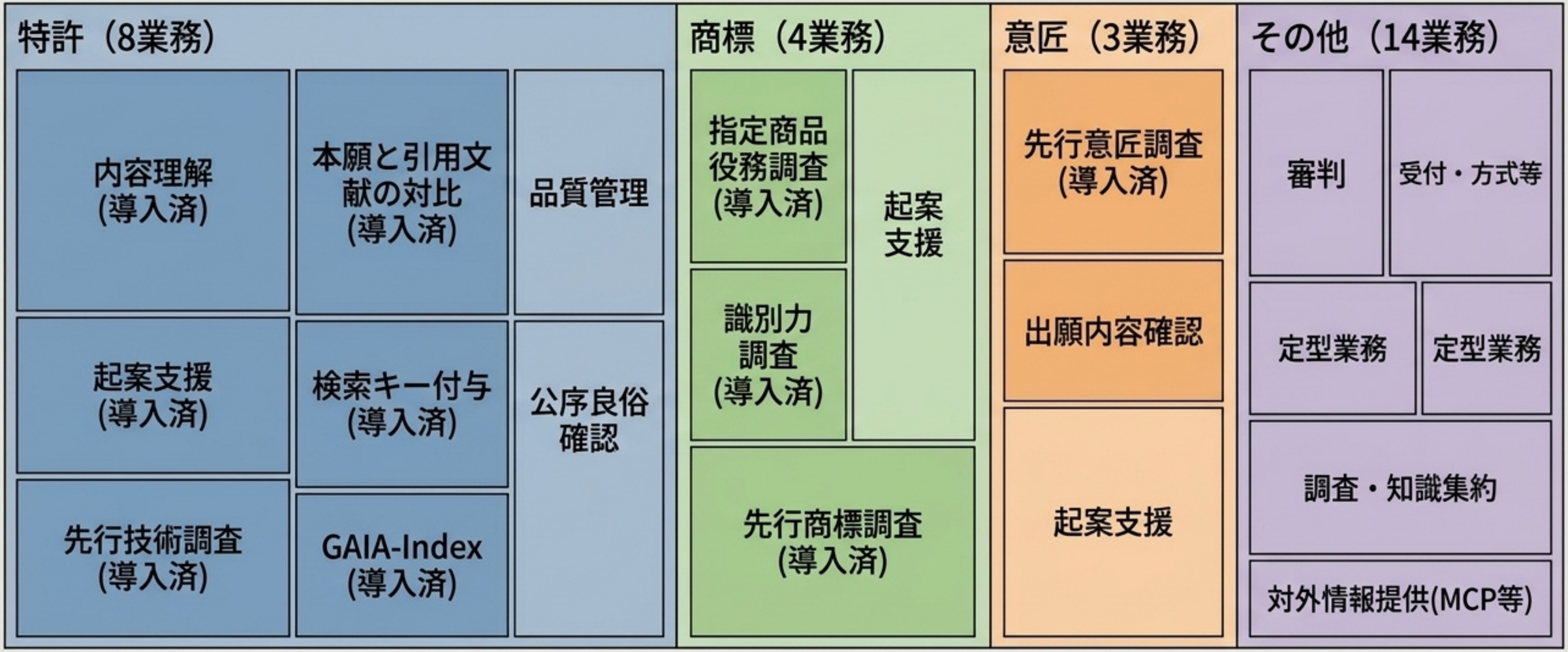


Gemini Notebook

JPO AIビジョン
5つのキーコンセプト



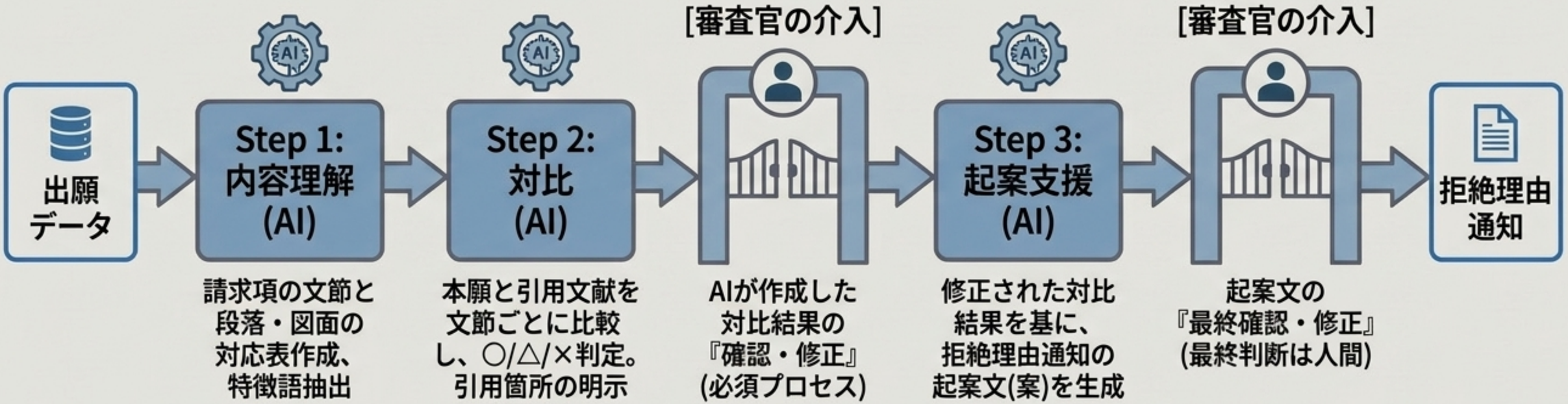
Gemini Notebook



特許審査のコア業務（内容理解・対比・起案）にリソースが集中。29業務中10業務が詳細開示され、既に『導入済（実証・試行含む）』フェーズへ移行。

Gemini Notebook

生成AIによる特許審査支援の構造（The AI-Human Loop）

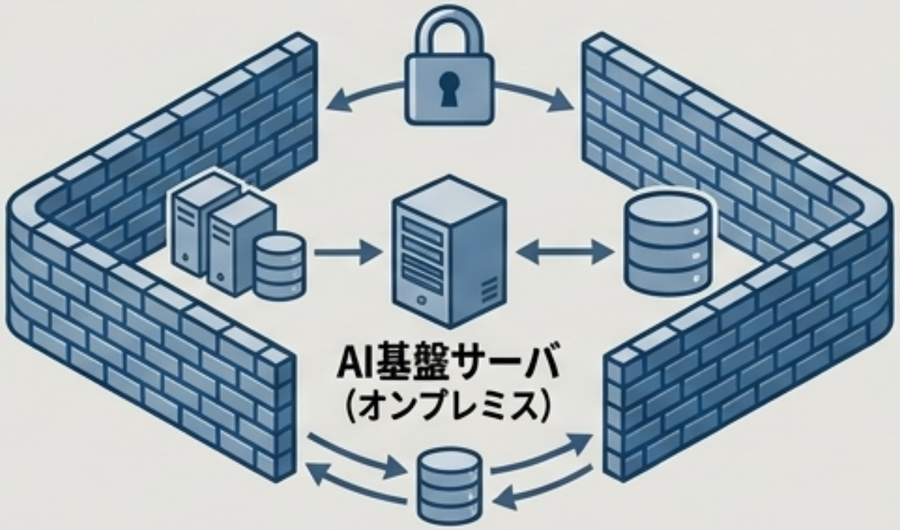


工程の間に『審査官の確認・修正』を必須トリガーとして組み込むことで、JPO AIビジョンの『アカウンタビリティ』をシステム設計レベルで担保。

Gemini Notebook

基盤整備：オンプレミスとMCPのデュアル戦略

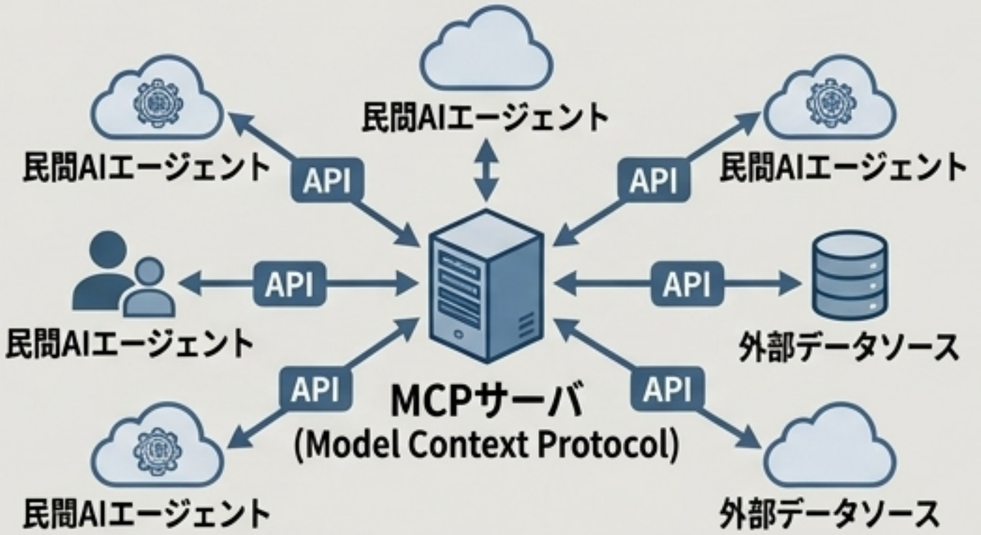
庁内ネットワーク（閉域・高セキュリティ）



AI基盤サーバ (オンプレミス)

課題：現状はクラウド型GenAIが使えず、未公開出願情報に入力制限。
解決策：インターネットから切り離されたオンプレミスAI基盤の構築。
スケジュール：令和8年(2026年)構築 → 令和9年(2027年)運用開始

外部ネットワーク（オープン・連携）



MCPサーバ (Model Context Protocol)

目的：民間AIエージェントが特許庁のAPIに自然言語で直接アクセスできる基盤。
スケジュール：令和8年(2026年)利用可能性調査 → 令和9年(2027年)以降運用

令和9年度（2027年）がJPOの「真のAI審査本格稼働」および「民間データ連携」のボトルネック解消の分岐点となる。

Gemini Notebook

5庁（IP5）のAI戦略・実装状況ダッシュボード

【US】USPTO

ASAP!（AI検索自動化パイロット）受付延長。審査『前』にAI検索結果を出願人に通知するアプローチ。

【EP】EPO

口頭審理でのAI調書作成試行。2026年4月ガイドライン改正で『AI利用書類の当事者責任』を明記。

【CN】CNIPA

審査周期15か月・正確率95.6%（2025実績）。スマート審査システム稼働（大規模モデル、AI助手）。

【KR】KIPO

『IP-AX推進団』新設。審査待ち期間を2029年までに10か月以内とする強力な数値目標。

Gemini Notebook

5庁AI・DX施策の徹底比較（The Diagnostic Table）

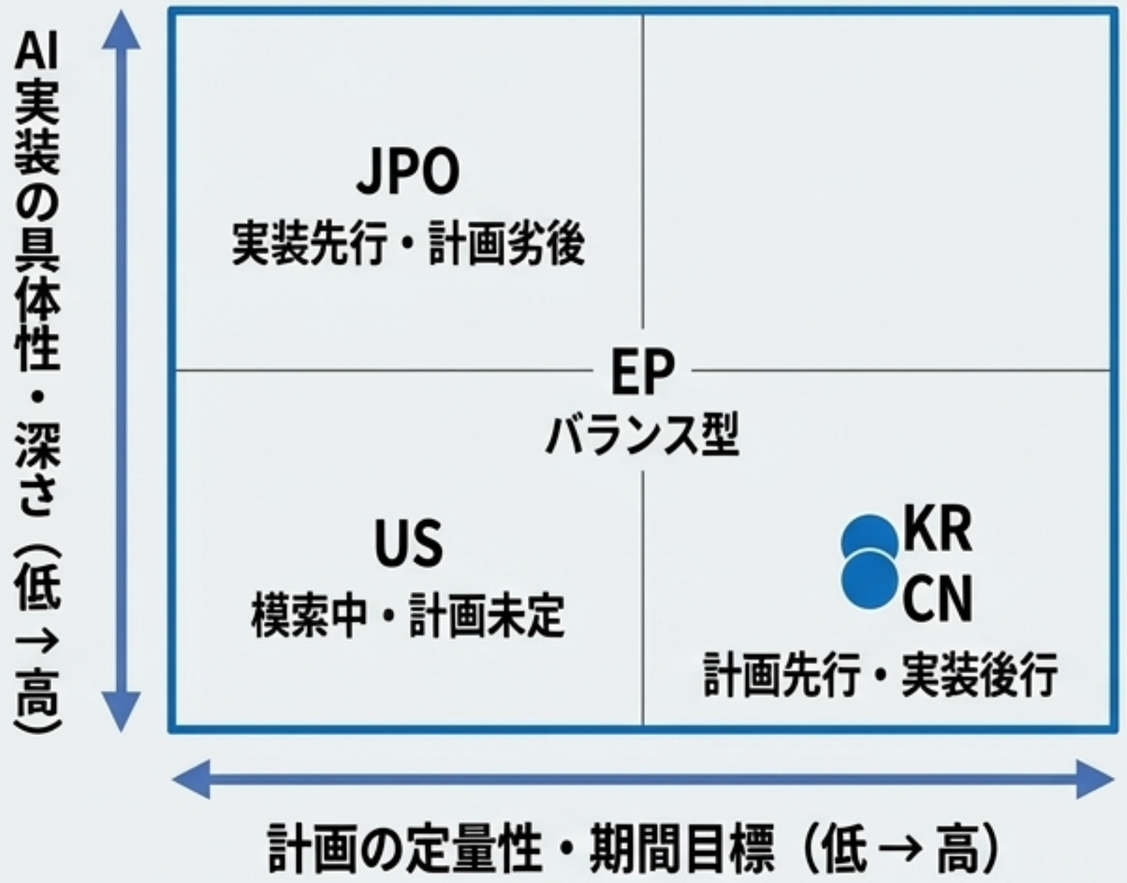
観点	JPO	USPTO	EPO	CNIPA	KIPO
審査中核への適用	● 対比・起案フロー公開	◑ 検索・翻訳中心	◑ 検索・翻訳中心	○ 非公開	○ 非公開
外部API/MCP開放	● 公式MCP計画明記	◑ Open Data API	○ 確認できず	○ データセンター	◑ 学習データ開放
出願人向け可視化	○	● ASAP!審査前通知	◑ AI調書	○	◑ KIPRIS要約
制度/ガイドライン	○ 未言及	○ 未言及	● 責任規程明記	○ 未言及	◑ 法改正推進団
定量目標（KPI）	○ なし	○ 件数ベース	◑ 適時性指標	● 15ヶ月実績	● 10ヶ月目標

Insight: JPOは「業務プロセスへの深い統合」と「民間開放」で先行するが、「ユーザー体験」と「制度的手当て」で出遅れて

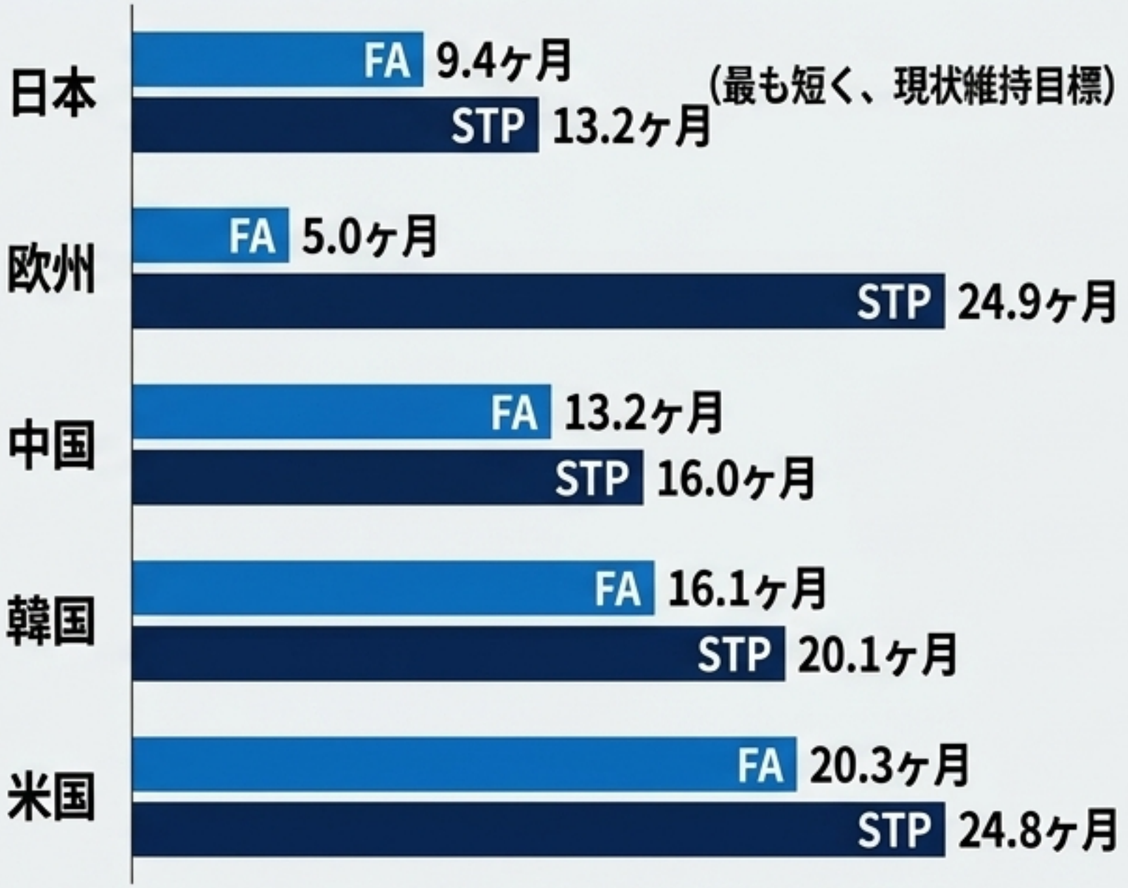
Gemini Notebook

総合評価：「実装先行・定量計画劣後」の背景にあるもの

AI実装と計画の2x2マトリクス



一次審査通知(FA)と権利化(STP)までの期間実績

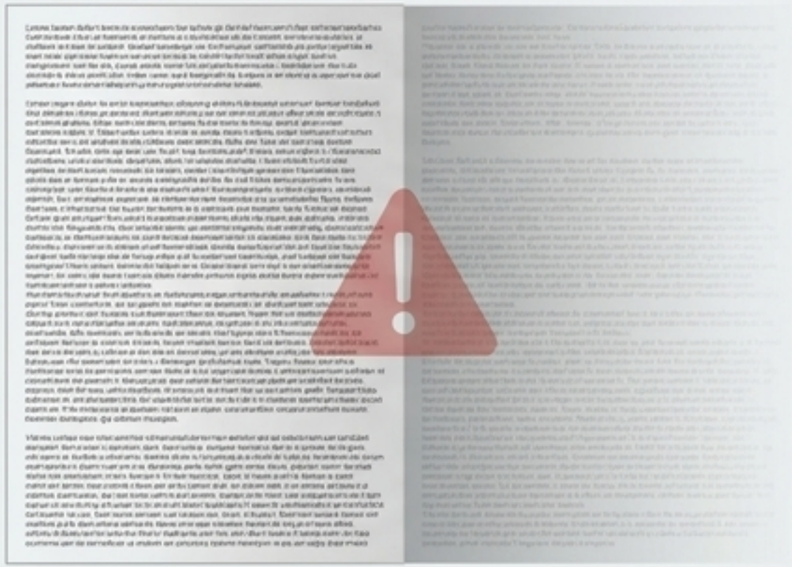


背景：中韓は『期間短縮』のためにAIを使うが、すでに世界最速水準の JPOは『品質維持と審査官の負荷軽減』のためにAIを使う。動機が異なるため、JPOは数値目標を追っていない。

Gemini Notebook

明細書・意見書作成のアジャイル化（Blueprint for Prosecution）

Before: 人間向けに書かれた明細書



- 文脈依存の表現、段落をまたいだ暗黙の参照
- 課題：JPOのAIによる「内容理解ツール」や「○/△/×判定」において、構成要件の認定漏れや誤判定のリスクが高い。

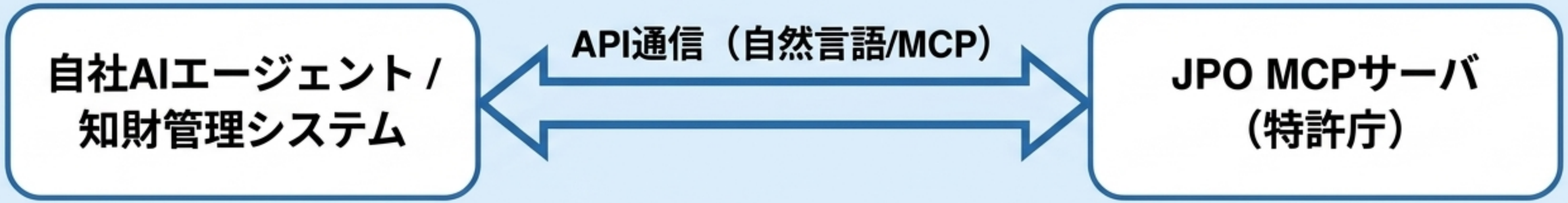
After: GenAI時代の「アジャイル」明細書



- クレームと詳細な説明の強い紐付け：AIの文節単位解析を前提とし、各構成要素の根拠（段落・図面）を明示的に記述する。
- 観点別のインデックス最適化：GAIA-Indexによる自動抽出を意識し、「課題・目的・作用」を明確なキーワードで記述。
- 対比表を前提とした反論：意見書は、AIが下書きする文節ごとの該当箇所と判定理由をピンポイントで崩す構成に組み替える。

Gemini Notebook

MCPとデータ連携がもたらす知財業務の自動化（The 2027 Workflow）



- 期限管理の自動化
- 拒絶理由通知の文脈分析・類似反論抽出
- 競合ウォッチの自動レポート生成

Action Required NOW（令和8年度中）

ロードマップによれば、令和8年度は『MCP利用可能性の調査段階』。

戦略的示唆：完成を待つのではなく、今年度中にユーザー団体を通じて「取得対象データ」や「利用条件」に関する強い要望（ロビイング）を出す絶好の機会。

Gemini Notebook

グローバル出願戦略とガバナンスへの影響

早期権利化ルートの再考



☑ Focus: 韓国（KIPO）

- 2029年に審査待ち期間10ヶ月以内という強烈な目標。
- グローバル出願戦略において、早期権利化の足がかりとして韓国出願の位置づけを格上げする検討。

審査前通知の動向注視



☑ Focus: 米国（USPTO）

- AI検索自動化パイロット（ASAP!）が延長。
- 審査前に先行技術が通知される制度の利用可否と、今後の後継施策への対応準備。

社内AI利用規程のアップデート



☑ Focus: 欧州（EPO）

- EPOガイドラインに『AI支援書類の当事者責任』が明記。
- 社内規程へ「生成物の人間による検証責任（ヒューマン・イン・ザ・ループ）」と「未公開機密情報の入力制限」の即時反映。

Gemini Notebook

総括と今後のマイルストーン (The Roadmap for Practitioners)

JPO Roadmap
(官公庁の青写真)

R8 (2026):
オンプレAI基盤構築開始
/ MCP利用可能性調査

R9 (2027):
AI基盤運用開始(未公開案件へのGenAI適用)
/ MCP構築・運用開始

Practitioner Action Plan
(実務者の青写真)

Tomorrow:
- 明細書テンプレートの改修(段落紐付けとインデックス化)
- 社内AIガバナンス(責任規程)の見直し

This Year (R8):
- ユーザー団体を通じたMCP要件の要望・提言
- 韓国出願ルートの再評価

Next Year (R9):
- 自社AIエージェントとJPO APIの連携システムの要件定義・試験導入

※ 留保事項: 本ロードマップは暫定版。AI対比表の出願人への開示有無など、透明性に関する追加開示を引き続き注視

Gemini Notebook